

2025_0316「3月の大雪（動画）」日々の理科 3874号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

この冬、2月までは北軽井沢に雪はほとんど降りませんでした。しかし3月に入ってから、北軽井沢も2回の大雪がありました。群馬県西部にある北軽井沢は、利根川水系の源流部にあたり、気候区的にも太平洋側の気候に属します。上信国境稜線（群馬と新潟の県境の山脈）からも少し離れているので、冬型の気圧配置が強まっても大雪になることは稀です。北軽井沢に大雪をもたらすのは、主として「南岸低気圧」です。関東平野部では雨になっても、標高が1100m前後の北軽井沢ではこの時期雪になるのです。

今日は東京からカメラを操作して、降雪の様子を観察しました。しかし、あまり気温が低くなかったせいか、雪粒は大きな塊が多かったようです。気温が低い時は、雪雲（乱層雲、積乱雲、雪層積雲、雪積雲など）から落下した雪の結晶は、降下中も互いに独立していて、そのまま小さな結晶のまま地表に届きます。しかし気温が高い時は、降下中に結晶同士がくっついて、塊になることが多いのです。いわゆる「牡丹雪（ぼたんゆき）」という降り方で、東京の雪はほとんどの場合が牡丹雪です。

これで雪は終わりだと良いのですが、北軽井沢では4月下旬や5月上旬に雪が降って積もることもあります。まだもう少し「雪道タイヤ」のままにしておこうと思っています。

(2025年3月中旬／北軽井沢／東京から遠隔観測)

